

事例 44 思考展開シート

(1) 疾病や薬の副作用等の影響は考えられますか？

【薬の副作用の影響】

- ・アムロジンOD錠（血圧降下剤）・・・めまい、ふらつき
- ・プレミネント錠（血圧降下剤）・・・めまい、ふらつき
- ・セロクラール錠（脳血流改善薬）
- ・アリセプトD錠・・・筋肉痛、脱力感、食欲不振、吐き気
服薬の影響は無いと思われる。

【アルツハイマー型認知症の影響】

- ・「私、おかしくなった・・・」等、記憶力について最近不安に思っている。
イライラする原因になっているのではと思われる。

(2) 身体的痛み、便秘・不眠・空腹等による苦痛の影響は考えられますか？

- ・22時頃入床し、4時～5時に起床するも、夜間眠れていない時があり、日中、居室にて臥床が見られる時がある。
- ・空腹なのか、口さびしいのか、冷蔵庫を開ける姿が日に何度も見られる。
上記があるものの、苦痛とまでの影響は無いと思われる。

(3) 悲しみ・怒り・寂しさ等の精神的苦痛、また本人の性格等の影響は考えられますか？

【性格の影響】

- ・きれい好き。
- ・男っぽい性格（はっきりしないと嫌）
- ・短気。
- ・せっかち。
- ・人に言われてするのは嫌だ。
性格の影響は多分にあると思われる。

【質問】性格の影響に対して、どのような配慮をしていますか？

【回答】できるだけ反対するような声掛けは避けています。行事等は事前に伝え、了解を得るようにしています。

【精神的苦痛】

- ・家族がいない寂しさ。
- ・なぜここにいないか納得できないが、帰る場所も無いと思っている。
- ・自由が無く精神的に苦痛だ。状況を納得したいが納得できずイライラする。

【質問】精神的苦痛に対して、緩和するためにどのような工夫をしていますか？

【回答】様子を見ながら、一対一での対応にて本人の話を聞いています。行事や外出は、本人の気の合う利用者と一緒にできるような配慮をしています。

(4) 音・光・味・臭い・寒暖等感覚的な苦痛を与える刺激の影響は考えられますか？

- ・難聴であり、小さな声では聞こえず、聞き返すことが多い。他人の話が聞こえず、イライラすることがある。
- ・自分の出す音は気にならないが、鍋の音（金属音）には反応し、嫌がる。
- ・雨の日は「嫌だ、嫌だ。」と言い、精神的に憂鬱になるようである。

(6) 障害程度・能力の発揮に対して、住まい・器具・物品等、物的環境による影響は考えられますか？

- ・ADLはほぼ自立しているが、自分で自由に使える冷蔵庫、洗濯機が無い。また、あっても使用方法が分からず、不満に思っているのではないか。
- ・車がないと買い物に行けない場所であり、不満があるのではないか。
- ・居室には馴染みの家具は持ってきているが、自分のポット、急須は使用していない。
- ・以前は一軒家に住んでおり、現在は6畳一間なので狭いと言っていたことがある。
- ・広々としていいところだと散歩時に言っている。
その時々で、生活環境に少しは不満があると思われる。

【質問】環境による影響に対して、どのような配慮をしようと思えますか？

【回答】買い物は定期的に出掛けており、本人の様子を見て声掛けをします。リビングにあるポット、急須は自分で使えます。冷蔵庫に本人用のかごを用意しています。洗濯物の声掛けをしていき、自分で干すようにしてもらいます。散歩にて、広々としたところに住んでいることを共感するようにします。

本人の言葉や状態
ワークシートC- に書いた、本人の言葉や行動を書き出し、関連のありそうな情報を整理してみましょう。

- ・「なにモタモタしているの！」「貸してみなさい！」「これでいいの！」他利用者が台所作業中強引に割り込み、自分のやり方でその仕事を取り上げる。
- ・「次どうするの！」「早くしなさい！」イライラした表情、大声でスタッフに指示する。
- ・他利用者がやっていることを、自分の席から何か言いたげな表情で見ている。
- ・「何でそんなこと言われなきゃならないの！」「そんなことしない！」自分の食器を洗うよう声掛けをすると、大きな声で反発し、それを他利用者にも話して、同意を求めている。
- ・散歩時や冷蔵庫を開ける時、「自由が無い。」「監視されているようで嫌だ。」と訴えることも多い。

(5) 家族・介護者など周囲からの過剰、あるいは少なすぎる関わりの影響は考えられますか？

- ・入居当時、甥が1週間に2～3回面会に訪れ、そのうち1回は外食に行っていた。最近は週1回の面会になっている。

【質問】面会が減っているようですが、どうしたら面会を増やすことができますか？

【回答】本人から甥に電話をすれば、都合をつけてもらえると思いますが、以前は面会が多すぎたような部分もあり、ここで生活する気持ちになるためにも、月2、3回でいいと思います。

- ・「お願いできますか。」等の声掛けに、反発や拒否が多く、スタッフからの積極的な関わりが少なくなってきた。
- ・直接関わりのある身内は甥のみである。
信頼できる人が少なく、安心できないのではないかと。

【質問】どうしたら信頼できる人(スタッフも含めて)を増やすことができますか？

【回答】本人が好きなお話をサポートしてくれるスタッフを増やします。他利用者との仲立ちをして、談話する機会を増やします。スタッフと一対一で本人の話を聞く時間をつくっていきます。

(7) 要望・障害程度・能力の発揮と、アクティビティー(活動)とのズレによる影響は考えられますか？

- ・本人が散歩に行きたい時、「少し待ってください。」と、職員の都合上、止める場合がある。
- ・他利用者の活動のペースを理解できず、イライラする。(特に、歩行能力は若い人と同じ位ある)
- ・職員が介助の必要な利用者ペースを合わせる時、本人は待たられないことがある。
- ・ADLはほぼ自立しており、本人は何でもできると思っている。
他利用者とのADLの違いによる本人の活動への影響はある。

【質問】これらの影響に対して、どのような配慮をしようと思えますか？

【回答】本人の様子を見ながら、他利用者のペースに合わせてもらえるよう説明し、納得を得ます。ストレスが溜まらないよう、一対一の関わりも考慮していきます。

(8) 生活歴・価値観等に基づいた暮らし方と、現状とのズレによる影響は考えられますか？

- ・自分の家族はなく一人暮らしだった。(2度結婚するも子供なし)
- ・入居前はデイサービス(週6回)にも行っていたが、家には帰っており、甥宅に週末は宿泊していた。

【質問】限度額を越えてデイサービスを使っていたようですが、デイサービスでの本人の状態は、どんな様子でしたか？

【回答】情報が少ないのですが、楽しかったようです。

- ・はっきりしないこと、ペースが遅いことが嫌いである。
- ・オープンな考え(他人のものと自分のものの区別はしない)を持ち、小さなことにこだわらない主義である。

一人暮らしで、自由な生活スタイルで過ごしていた。他人のペースを受け入れる習慣が少ない生活であり、その中で暮らし方、考え方の基本ができてきたのではと思われる。

【質問】どのようにしたら、本人の生活スタイルや習慣を大きく変えないで生活できますか？

【回答】他利用者とトラブルになるような場合は、スタッフが仲立ちして対応し、スムーズに生活できるようにしていきます。